

執筆者紹介（掲載順）

岩坪 健（本学教授）

城阪 早紀（本学研究開発推進機構及び文学部特別  
任用助手）

邊 恩田（同志社国文学会会員、元・本学嘱託  
講師）

中嶋 優隆（本学大学院文学研究科博士課程  
後期課程在学学生）

加藤 大生（本学研究開発推進機構及び文学部特別  
任用助手）

山本 佐和子（本学准教授）

北上 真生（弘前市立博物館主査兼学芸員）

八木 智生（本学大学院文学研究科博士課程  
後期課程在学学生）

翻刻の会  
佐藤 未央子（法政大学文学部助教）

編集後記

本号は、研究論文が五本、資料紹介が五本、計十本の充実した誌面となった。昨年度から続くコロナ禍の困難にもかかわらず研究を進められ、原稿を寄せて頂いた執筆者各位に心より敬意を表したい。彙報欄に記した通り、今年度も同志社大学国文学会の活動には一定の制約を余儀なくされた。しかしながら、オンラインの活用や感染対策の徹底等により、昨年度中止した春季研究発表会・国文遊歩を実施、国文合宿も研究発表会として実施することができた。積極的に取り組んだ院生部会・学生部会のみなさんにも敬意を表したい。コロナ禍の影響は来年度も続くだろうが、その一方で、私たちはこの状況下において有効な教育・研究の方法を模索し、確実に知見を積み重ねてきた。会員諸氏にはそうした成果を世に問う場として、今後も本誌を活用して頂きたい。